

2 読書指導

Q2 「読書指導」は どのようにしますか

A2 「好きな本を読みましょう」は禁句です。その時間のめあてをもたせましょう

(1) 読書指導とは

これまで、読書の時間といえば、多くは自由に本を選んで自由に読む時間とされてきました。担任が不在で自習の時間、あるいは先生が宿題のまる付けをしている時間、というイメージはなかったでしょうか。しかし、それは余暇活動としての読書であって、授業時間を使っておこなう「読書指導」ではありません。

「読書指導」は、児童生徒の読書力の向上や、嗜好の広がり、豊かな人間性の育成など、その時間のめあてをもたせ、目的に合う図書を選んで読ませます。そのためには、動機付けとなるような全体指導や、読み聞かせなどの技術が必要です。

(2) 読書指導 3つのステップ

1. テーマの設定 & 本の確保

2. 動機付け(本の紹介・クイズ)

3. 読む時間の設定

(3) 読書指導の流れ(1)・・・基本の例

1. 全員が着席をする。(席は自由にはせず班ごと、あるいは学校図書館用の席を決めるとよい。)

ポイント1 本の返却と貸出は先にはしない。

2. 先生が「本時のめあて(テーマ)」を言う。国語以外でも活用する。(中学校も同様)

例) 国語 教科書に関連する内容を設定するとよい。

「詩の本を読んで、気に入った詩をノートに写そう。」全学年

「絵本 1 冊を最後まで二人で読もう。」「むかしばなしの絵本を読もう。」1年生

「きつねが出てくるお話を読もう。」「あまんきみこの本を読もう。」2年生

「斎藤隆介の本を読もう。」「図鑑を読もう。」3年生

「シートン動物記を読もう。」「新美南吉の本を読もう。」4年生

「宮沢賢治の本を読もう。」「ノンフィクションの本を読もう。」5年生

「伝記を読もう。」「ファンタジーの本を読もう。」6年生

「戦争に関する本を読もう。」「文豪の本を読もう。」中学生

理科 「チョウチョの図鑑や本を読んでわかったことを書こう。」3・4年生

「夏の草花を見つけて、ノートに絵を描いて名前を書こう。」4年生

社会 「米について書いてある本をさがして、～を調べよう。」5年生

「戦争中のくらしがわかる本を読もう。」6年生

ポイント2 本が足りるように、事前に学校図書館指導員に連絡をしておく。

読書の場合・・・「何冊持っていてもいいですが、15分間は交換しないで読みましょう。」
「かいけつゾロリ、ミッケ、ドラえもん、漫画は休み時間に読んで、授業中は読みません」と、初めに約束をしておく。

3. 先生、学校図書館指導員が動機付けに読み聞かせ、ブックトーク、クイズ等をする。

4. 本時のめあての本を選んで読ませる。

ポイント3 先生は読めない児童のそばで小さい声で音読をさせたり、一緒に指でたどって読ませたりする。(読み聞かせより効果あり) あるいは、これから使う本をさがして目を通す。

5. 課題ができれば、あるいは時間になったら、本の返却と貸出をする。

6. 机の上の消しゴムのカスは手で集めてゴミ箱へ捨て、椅子を入れて帰る。

読書指導の流れ(2)・・・静読(せいどく)タイムを取り入れた場合の指導例

1. 全員が着席する

2. 先生からのお話

「今日は○○○な本を読みましょう。」

「今日の静読タイムは○分です。」

3. 本を返す

4. 「○○○な本を、自分でさがしましょう。」

5. 準備ができれば静読タイムスタート

※静読タイムは静かに本を読む時間です。

※読み終わっても立ち歩きません。

※先生は読めない児童のそばで小さい声で音読をさせたり、一緒に指でたどって読ませたりする。

6. 時間になったらやめる。

※「○分間全員がしっかり読めました。みんな頑張りましたね!」「○○さんは一度読み終わって、もう1回繰り返し読んでいました。良いですね。」など、子ども達の良い所を見つけ称賛し励ます。

※慣れてきたら少しずつ読む時間を増やし、教師の目標としている時間にもっていくようにする。

7. 借りる本を選ぶ

8. 本を借りる

9. 後始末、あいさつ、帰る



★静読タイムの目安時間(例)

低学年・・・10分～15分

中学年・・・20分～25分

高学年・・・30分

目標の時間は、学年や学級の実態により異なりますので、各校で決めてください。

「読み聞かせ」で本の世界を楽しもう！

いつでもどこでも誰にでもできます。本を読むのが苦手な子も本の面白さを知ることができます。

1 読み聞かせの進め方

(1) 準備

- ・読み手が読み聞かせたいと思う本、読み聞かせに向く本を選ぶ。
(絵は遠目のきくものが良い。文体がリズムカル、美しい。主人公にしっかり視点が当てられている。季節や行事に関連させたり、学習内容に関連させたりしている。後で借りる事が出来る。等)
- ・読む練習をしておく。
(声の大きさ、速さ、間の取り方、本の持ち方、本に開きぐせを付けておくなど)

(2) 読み聞かせをする

- ・読み手は聞き手より高い位置で読む。
- ・読み手の前に子どもを集めた方が集中力は増すが、時間がない時には自席でも良い。
- ・表紙を見せ、タイトル・作者名から読み始める。
- ・わざとらしい身振りや声色を使わない。
- ・途中で説明的な言葉をはさまない。子どもの反応には表情でこたえる。
- ・お話の流れや余韻に合った速度で読み、めくる。
- ・最後に表紙・裏表紙を見せる。読み終わりは「おしまい」で終わる。

※

- ・低学年の子の中には「もう知ってる」「それ読んだ」と言う子がいるが、そういう時は、「もう一度聞いてね」「先は言わないでね」などと話してから始める。
- ・途中の質問には、すぐ答えられるものは答え、そうでないものは後で答える。
- ・高学年・中学生には、学習に合わせた本、メッセージ性のある本、ユーモアのある本などがおすすめ。

(3) 事後

- ・貸出をしたり、図書館に展示したりする。

2. 自分で読める子にするためには

- ・読み聞かせた本がすぐ借りられるようにする。
- ・同じ作者の本やシリーズを紹介する。
- ・朝読書など、自分で読む時間を確保する。



「ブックトーク」で自分にあった本を見つけよう！

今まで手に取らなかった新しいジャンルの本を知る事ができます。
読書の幅が広がります。

1. ブックトークの進め方

(1) 準備

- ・テーマを決める
(是非紹介したい本がある時などは、テーマは後で決めることもある。)
(テーマは子どもの視点で。教科の単元や、季節や行事に合わせると決めやすい。)
- ・テーマに沿った本を選び集める(後で学級全員が借りられるようにする。)
- ・構想を練る。
(核になる本を決める。紹介の順序を決める。じっくり紹介する本、あっさり紹介する本を決める。写真や絵、関連する具体物などを用意する。)
- ・1回に取り上げる本は5, 6冊から多くても10冊程度。1～2冊のブックトークがあっても良い。

(2) ブックトークをする

- ・物語の場合、結末はなるべく言わない。エピソードの一つ語る。
- ・ハウツー的な本、名句集等の場合は、一つ例をあげてしっかり話し、「他にも楽しいことがたくさん出ています」と紹介する。
- ・話しかけるように、あるいはクイズ形式にして、聞き手を参加させる。

(3) 事後

- ・学習の中で活用する。
- ・本を読む。・貸出をする。



2. 本を選ぶ

- 何を選ぶか・・・よく探し、よく読み、よく考える
- 時の試練を経てきた本こそ、ブックトークの中心になる
- 本の傾向が一方に偏らないように、幅広く
- 目立たないけれど、おもしろい本を

3. テーマ 動物、人間、自然、暮らし、道具、不思議な生き物等々、テーマはいたるところにある。

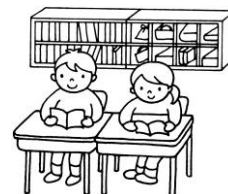
【例】

- ①テーマ「動物園へ行こう!」、「野菜・果物みんなたべたいな」、「お手紙ください」
「緑」、「時間」、「ちょっと怖い話」、「映画になった物語」、「ベストフレンドのを見つけ方」、等々
- ②学習に合わせたテーマ
「算数で遊ぼう」、「車の新時代(自動車)」、「稲作の文化(米)」、「震える大地に備える(地震)」、
「身近で不思議な動物ネコ」、「スポーツの祭典」、「豊かな言葉の世界(方言)」、「平家物語の世界」
「夜空の芸術」、「古典・・・故事成語」、「違っていいじゃない」、「ゲルニカをみてみよう」、「津軽と太宰治」、「なぜベンチに座れないの?」、「安房直子の本を読もう」、「日光と徳川家康」、等々

「読書会」で思いを伝え合おう！

本が好きになります。友達と認め合えるようになります。話し合う楽しさがわかります。

1. 読書会の進め方



(1) 準備

- ・学級全員が同じ本を持ち、各自で読んでおく。
 - ・先生か学校図書館指導員が、「聞かせ読み」※をおこなう。
 - ・簡単に感想を書く。
- ※「読み聞かせ」と「聞かせ読み」は違います。ここでは、「聞かせ読み」（先生が読み、子どもは本を持ち目で追いつながら聞く）が良いでしょう。

(2) 読書会

- ・感想をもとに司会者（先生）がテーマを決め、グループで友達と交流する。

★読書会の約束

1. 一人一度は必ず発言する。
2. 発言を否定しない。最後までしっかり聞く。

【例】・低学年（1～3年）・・・ここに残ったところはどこかな？ なぜそう思うのかな？

・高学年（4～6年）・・・（感想がわかれたところについて） あなたはどう思うかな？

・中学生・・・このお話は何を伝えようとしているのかな？ あなたは何を受け取ったかな？

(3) 事後

- ・関連する本を読む。

2. 読書会の本

柏市には、40冊そろっている読書会用の本があります。

対象	書名	出版社	冊数	セット数
小 低～	わたしのいもうと	偕成社	40	
小 低	ジジオのかんむり	福音館書店	40	2
小 低	はじめてのおつかい	福音館書店	40	3
小 低	ペンギンのひな	福音館書店	40	2
小 低	かわいそうなぞう	金の星社	40	
小 中	シートン動物記(オオカミ王ロボ)	集英社	40	3
小 中	火よう日のごちそうはヒキガエル	評論社	40	2
小 中	しっばいにかんぱい	童心社	40	
小 中	アナグマさんのもちよりパーティ	評論社	40	
小 中	あらしのよるに	講談社	40	
小 高	ぼくのお姉さん(歯型)	偕成社	40	2
小 高	じっぼ	あかね書房	40	
小 高	よだかの星	全国 SLA	40	
小 高	杜子春	講談社	40	
小 高	杜子春・くもの糸	偕成社	40	
小 高	100万回生きたねこ	講談社	40	
小 高	キング牧師のカブよいことば	国土社	40	
小 高	ひまわりのおか	岩崎書店	40	
中学	賢者の贈り物	講談社	40	
中学	最後の一葉	全国 SLA	40	

★これらの本を使いたいときは、司書教諭・学校図書館指導員に相談してください。

「ビブリオバトル」で、本を紹介し合おう！

本を通して人を知る。人を通して本を知る。ゲーム感覚で友達と交流する「知的書評合戦」です。

1. ビブリオバトルの進め方

柏市立図書館でも毎年1回、中高生を対象に行っています。

今、とても人気のあるイベントです。

(1) 準備

- ・自分で読んで面白いと思った本を決める。
 - ・**5分※**で、その本の魅力を紹介できるよう、練習しておく。
- ※公式ルールは5分だが、小学校では3分間で行うことが多い。

(2) ビブリオバトル

- ・4～6名のグループを作る。じゃんけんで発表の順番を決める。
- ・投票用紙(メモ)を配る。
- ・順番に、5分ずつ(3分ずつ)本を紹介する。(ライブ感覚が大切！メモは見ない。)
- ・それぞれの発表の後に、その発表について2～3分のディスカッションをする。
- ・すべての発表が終わったら、「一番読みたくなった本」を投票しあう。
- ・「チャンプ本」決定！

(3) 事後

- ・「チャンプ本」を読む。

★ 読書会・ビブリオバトルの取り入れ方



学習単位の中に位置づけて行う

目標を達成させるための手立てとして指導計画に読書会・ビブリオバトルを位置付けて行いましょう。

国語科はもちろんですが、他教科での位置付けも考えてみましょう。

本に限らず、新聞記事・雑誌のコラム・パンフレットなどが教材になるかもしれません。

学級活動に位置づけて行う

学級経営に役立てるよう、読書会・ビブリオバトルを年間計画に位置付けて行いましょう。

学期ごとに、どんな力をつけるために行うのかを意識しましょう。

この読書会・ビブリオバトルで培われた学級風土を、授業改善に役立てましょう。



読み聞かせ、ブックトーク、読書会、ビブリオバトルを取り上げてきましたが、他にもリテラチャーサークル、アニメーション、ストーリーテリング等が行われています。それぞれの読書活動で、どのような力をつけていきたいかを考えながら、計画的に実践していくことが大切です。